

令和8年 新春のご挨拶

しずない農業協同組合 会長理事 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、御家族とともにご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃より当組合の事業運営に対し、ご協力とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

国内におきましては、昨年は一昨年より続く主食用米の価格高騰が止まらず、政府は2月より備蓄米を21万トン、5月からは随意契約による30万トンを放出し、主食用米の価格安定対策を行ってきましたが、11月末時点においても5kg当たり4千円を超える価格が続いております。

海外に目を向けますと、1月より米国におきまして、第2次トランプ政権の発足から輸入品に係る様々な関税の導入、高市政権下の台湾有事を巡る国会答弁から日中関係の悪化などと、激動と転換の1年でした。

また、我々JAグループにおきましては農政活動の重要性が高まる中、7月の参議院選挙で道北なよろ農協の東野ひでき氏が皆さまのご支援のもと見事当選を果たしました。地域の実情に根ざした政策づくりが進み、農業現場の課題解決につながることを大いに期待しております。

昨年の農作物の状況としまして、当組合の基幹作物の1つであるミニトマトについては、昨今の気温の高さから、促成作から抑制作への植え替えの時期を前倒しする方が多く、猛暑が続く8・9月をより成長した状態で迎えることが出来たことから、花落ちが比較的少なく、抑制作が昨年と比較し収量増となっております。なお、単価についても昨年よりもさらに良く、

取扱金額は9億6千万円となり、青果全体では10億3千万円となりました。

なお、本年は1組の新規就農者の参入が予定されております。

水稲は日高管内の作況指数で101の「平年並み」でありました。昨年の平均気温は平年よりかなり高く、日照時間も長かったことから、水稲の生育は平年より1週間程度早く進み、収量は平年並みでありましたが、胴割れを始めたとする被害粒も少なく、低蛋白で高品質な米を出荷することが出来ました。令和7年産万馬券については1883俵を買い入れ、しずない農業まつり以降からAコープ静内店にて店頭販売を開始し、業務向け納品を中心に新規取引の注文が集まっております。

また、上川大雪酒造で仕込んである地酒「静内彗星」海桜丸は、6年目を迎えております。静内産米の品質の高さから、毎年「飲まざる酒」に出来上がっております。ピーターが増えております。

本年も4月末頃の販売を予定しておりますので、その出来栄を味わっていただきたいと思います。

黒毛和牛については、ホクレン南北北海道市場の素牛平均購買価格は去勢で75万円、メスで62万円と、

前年比較で14万円程度の高値で推移しており、当組合の年間の販売金額は4億8千万円程度と前年の4億2千万円程度より6千万円増加しております。7月には中国への24年ぶりとなる日本産牛肉の輸出が再開されるとの話もありましたが、その後の日中関係の悪化もあり、市場動向については一段と注視が必要だと思われます。このような状況ではありますが、今後とも購買者のニーズに答え、より良い素牛を出荷できるよう高齢牛の淘汰更新を積極的に進め、優良母系牛群の形成を進めていきます。

また、酪農については夏の猛暑の影響も懸念されましたが、静内全体の乳量は、ほぼ計画通りで推移しており、販売金額は3億3千万円の取扱実績でした。ホルスタインや交雑種の初生子牛につきましては引き続き安価な状況が続いております。

基幹産業である軽種馬については、昨年の市場販売頭数及び販売金額が、444頭、74億3千万円で一昨年より販売頭数が39頭の減少、販売金額が2億4千万円の増加となり、平均販売価格は185万円増加の1673万円となりました。昨年10月に日経平均株価は5万円の節目を突破し、良好な